



## 江東区議会 平成24年第4回定例会開催報告

平成24年度第4回定例会が11月28日から12月26日までの日程で開催されました。今回の議会では、「平成24年度江東区一般会計補正予算(第二号)」や平成27年4月にオープン予定の「(仮称)シビックセンター新規工事請負契約」(62億6115万円)、平成27年4月に開校予定の「豊洲西小学校新規工事請負契約」(27億8250万円)などの契約案件、「江東区清掃リサイクル条例の一部を改正する条例」など合計24件を審議し、全案件が可決となりました。

## 江東区議会 平成24年第2回定例会

次の江東区議会は平成25年2月20日～3月28日までの会期で開催予定です。鈴木あやこの一般質問は本会議2日目の2月21日(木)午後に予定しています。ぜひ傍聴や「江東区議会インターネット中継など」で注目いただけますと幸いです! 第3回定例会では、通常の議案審査のほか、平成25年度予算審査特別委員会が2月25日～3月5日まで開催されます。次年度の予算について、区民の皆さんから頂いたご要望をもとに、より良い江東区をつくるものとなるよう、提言を行なながら審査を行います。詳しい結果については、次回以降の区議会レポートにてお知らせします。

## 鈴木あやこのプロフィール

1975年 2月18日生まれ。江東区猿江、潮見を経て豊洲在住  
1997年 成城大学文芸学部卒業  
1997年 (株)NTTドコモ入社。法人営業に従事。  
2011年 早稲田大学大学院公共経営研究科修了。  
2011年 江東区議会議員選挙にて初当選。

★所属委員会(2011年度)  
・区民環境委員会・医療介護制度特別委員会(2011年度)  
・文教委員会・医療介護制度特別委員会(2012年度)  
★ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟  
事務局長補佐  
★趣味:料理・地元グルメ食べ歩き



鈴木あやこ事務所  
〒135-0061 江東区豊洲4-10-18-622  
TEL&FAX. 03-3536-4251  
e-mail. suzukiayako2011@mail.goo.ne.jp

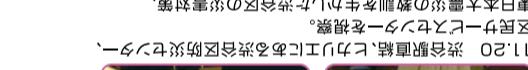
江東区議会民主党  
〒135-8383 江東区東陽4-11-28江東区役所議会棟  
TEL&FAX. 03-3648-2117

連絡先

江東区の課税逃れの問題で、日々奮闘中の区議員たちが奮闘を応援しています。



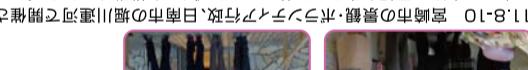
区民が一日の間の行動を記録して、毎日行動を記録する活動が実施されました。



11.22 隅田川地区で「江東区の課税逃れの問題で、日々奮闘中の区議員たちが奮闘を応援しています」



11.8-10 富岡市で景観・市づくりアーティスト、日南市の堀川清河と連携して活動を行なった。



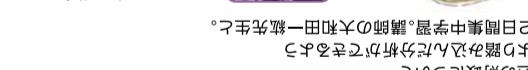
11.26 所属の立候補、区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



10.26 所属の立候補、区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



10.22 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



10.21 豊洲公園で開催された「江東区の課税逃れの問題で、日々奮闘中の区議員たちが奮闘を応援しています」



10.17 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



10.11 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



9.8 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



9.3 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



9.11 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



9.10 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



9.8 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



9.3 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



9.11 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



9.8 江東区議会議員選挙に立候補するための準備を行なった。



鈴木あやこは、ソーシャルメディア(Facebook、Twitterなど)をフル活用した議員活動を行っています！

## 議員活動のためのソーシャルメディア講座

### 第3回 議活報告をSNSで

議員が視察先や勉強会の現場から、TwitterやFacebookで

「議活」の報告を即時送信している姿がよく見られるようになりました。

今回は、そんなソーシャル系議員のひとり、東京・江東区議会の鈴木あやこ議員から、

「議活SNS」実践のコツを伺いました。(編集部)

#### 本当に必要なデータの整備が課題

鈴木議員は、大学卒業後IT企業に入社、官庁営業などを担当したビジネスキャリアを生かして、毎日の「議活」の現場報告を、多機能情報端末のiPadや軽量ノートパソコンを使って自身のブログやTwitter、Facebookで発信している。

どこにいても、どんなタイミングでも、情報の受信と発信が可能なことがソーシャルメディアの特性だが、企業やビジネスマンには当たり前の情報環境の整備が議会では進んでいないという。

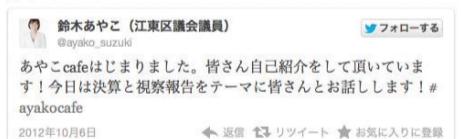
鈴木 江東区は、今のところ議場や委員会室ではパソコンやタブレット端末の持込みは許可されていません。今は、視察や本会議、委員会以外の打合せの場など、持込みが禁止されていない場所で、できるだけiPadなどを使っているところを職員や議員の方々に実際に見ていただき、便利さを広めていけるところです。目の前でお話ししながら、疑問に思ったことを検索したり、他の自治体の事例や資料に当たって、すぐにその場の議論に生かしています。

今年、徳島県の小松島市議会や大阪府の堺市議会などで、全議員にiPadが配布され、議場や委員会の資料配布の大幅削減が可能になった。しかし、全国の大多数の議会では、情報端末やパソコンは携帯電話と同様に持込みが禁じられているのが現状だ。資料のペーパーレス化にはコスト削減などメリットも大きいが、実現にはいくつもの課題がある

#### ツイートは後から内容をまとめて整理



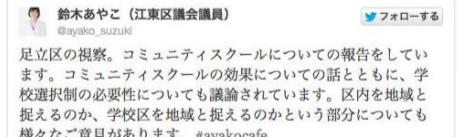
##### ☆オープニング



##### ☆決算審査報告



##### ☆足立区視察報告



<http://www.suzukiyako.com/archives/52056733.html>

鈴木あやこは、江東区政を皆様にとってより身近なものにしていくため、2012年5月に江東区議会議員として活動を開始してから、議会活動や日々の地域活動、視察などの活動について、Twitter、Facebookなどのソーシャルメディアを毎日フル活用して情報を発信してまいりました。議会活動、「議活」をわかりやすく「見える化」するための活動が、雑誌掲載されましたので、皆様にご紹介します。

この内容は2012年12月の第17回「あやこcafé」でも参加者の皆様にご報告し、ご意見を頂きました。

出典:第一法規「議員NAVI」vol.34

そうした資料をたくさん持ち込んで対応しています。簡単に検索できないので、すぐに見たい資料や探したい数字を探し出すのも大変です。重要な資料や本当に必要なもののデータ整備が課題です。

会社員時代に官庁を回って営業していたときから感じていましたが、民と官が最も異なるところといえば、役所では民間のように、トライアル・アンド・エラーの失敗が許されないところです。首長や職員もリスクテイクには慎重になるため、前例主義や守りの姿勢が多いのだと思います。

#### 議員活動の「見える化」が重要

毎日の議員活動を、支持者や住民に知らせるにはどのような手法があるだろう。街頭演説、チラシの配布、議会報告会。地方議会議員がひとりで行うには時間も予算も限られている中で、効率的にソーシャルメディアを使用する工夫は。

鈴木 ソーシャルメディアの活用のため、私自身はまずホームページとFacebookのページに情報を集約し、即時性が必要なものはTwitter、Facebook、ブログにするなど手段を使い分けています。ホームページはすべての玄関口となるポータルサイトです。プロフィールや政策、議会報告、後援会情報など過去から現在のすべての資料を整理しておくことができます。Facebookは、ポータルサイト的な役割と、ウォールを利用した即時性のある情報発信の両方が可能なツールです。

実は、私自身は議員になる前は、ここまでITにこだわるつもりがなかったのですが、議員になって、議員活動や議会で起こっていることが住民に知られていなかったことを痛感し、情報発信を強化することにしました。ネットなどの「仮想」の世界の中だけではなく、現実世界で住民の皆さんに会う機会を大切にしています。

実際に「あやこcafé」という対話型の区政報告座談会を定期的に行い、從来からの紙媒体のチラシ

#### ソーシャルメディア活用事例



を配布するなどの活動もしています。紙とソーシャルメディアとの一番の違いは、紙はそのとき会える人にしか手渡せませんが、ソーシャルメディア上では、通常では残念ながら時間が合わずなかなかお会いする機会のない方に対しても、きめ細かく政策や意見を届けることができるという点です。「あやこcafé」での報告資料や、紙媒体のチラシ、視察報告書など、私が発信するすべての情報を「見える化」してウェブから取り出せるようにしています。

多様な情報を受信するのに、実際には費用や時間のやりくりはどうしているのだろうか。ランニングコストを含め、政務調査費(政務活動費)に占めるソーシャルの比率・負担はどのくらいか。



多様化した社会の発信するまちの声に耳を澄まし、政治への無関心にブレーキをかけるには、前例主義に代表される地方政治の「リアル」と、デジタル社会の「リアル」の架け橋となる鈴木議員の世代の力が欠かせないだろう。

#### Profile

##### 鈴木 あやこ(すずき・あやこ)

1975年福岡県生まれ。大学卒業まで小金井市で育つ。1997年成城大学文芸学部マス・コミュニケーション学科卒業。同年株式会社NTTドコモに入社。携帯電話を活用した「介護支援システム」、「投開票速報システム」などの行政連携の仕事に多く携わる。2002年結婚。仕事の継続と子育てが二者択一になっている社会の現状に問題意識を感じる。2006年NPO法人一新塾19-21期。2007年江東区未来会議に公募。2009年早稲田大学大学院公共経営研究科入学。働きながら夜間、土曜日に通学。修士論文は「都市部におけるワーク・ライフ・バランス施策と地域コミュニティ」。2010年江東区都市計画マスター・プラン・ワークショップに公募区民として参加。2011年3月早稲田大学大学院公共経営研究科修了。2011年4月江東区議会議員選挙にて初当選。Facebook:鈴木 あやこ(江東区議会議員) Twitter:@ayako\_suzuki

#### 友達認証は会ったことのある人を優先

ソーシャルメディアを活用し、議員活動を「見える化」するためにはどんなコツがあるだろう。鈴木議員は、区政報告会「あやこcafé」をTwitter中継で即時公開。報告会の最中につぶやかれた言葉を後でまとめて見せたり、配布資料とあわせてウェブに載せるなど、情報の整理を行っている。ツイートを効果的に使う工夫やリスク対策は。

鈴木 議員の場合も会社員の場合も、リスク管理に関する基本的な考え方は同じです。個人情報や未発表情報など、秘密を守らなければならない話は書き込みません。写真などに個人の方が写る場

赤ちゃんが自然に母国語を獲得するように、デジタル化した世界で自然にリテラシーを持って育つ世代のことを「デジタル・ネイティブ」と呼ぶ。全町村議員の平均年齢は61.6歳、最年長議員は89歳(2012年「町村議会実態調査」)。デジタル・ネイティブ世代と地方政治との距離はまだ遠い。